

農薬飛散低減対策の技術確立に向けた総合的試験・実証結果について

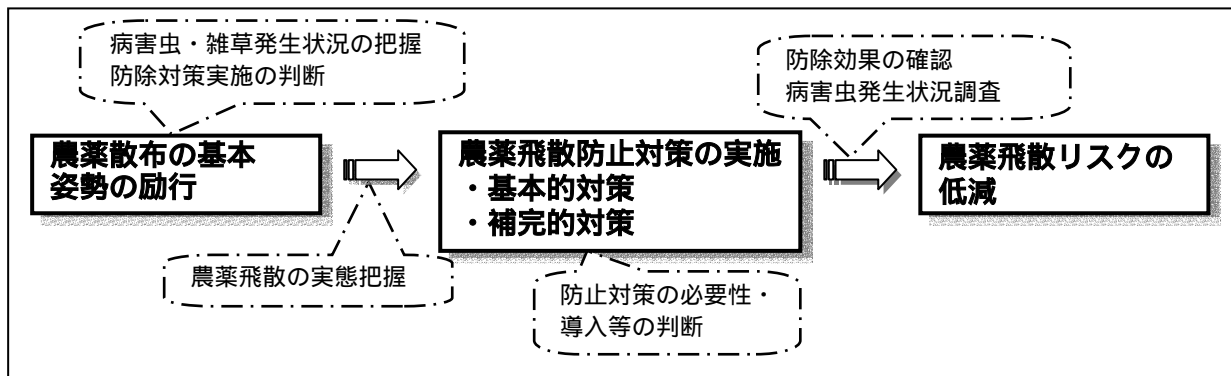
兵庫県立農林水産技術総合センター
普及部 専門技術員 小舟 博文

兵庫県における農薬飛散防止対策への取組状況

- 1 本県における農薬使用の現状
- 2 本県における農薬散布等の現状
- 3 作物別の農薬散布機具
- 4 農薬飛散防止対策の取り組み
 - (1) 現地での取り組み
 - (2) 試験研究の取り組み
 - (3) 行政の取り組み
 - (4) その他
- 5 現地からの声
 - (1) 現状の飛散防止対策は技術的に限界・・・
 - (2) 水稻粉剤のドリフト防止対策を・・・
 - (3) ドリフト低減ノズル・・・
 - (4) 高い防除効果が確保できる防除機具を！
- 6 農薬飛散防止対策のポイント
 - (1) 農薬飛散の実態を知る・・・具体的な対策を実施するために
 - (2) 基本は、農薬の適正使用・・・農薬使用基準の遵守
 - (3) 飛散リスク低減への取り組み・・・完全な飛散防止対策はない
 - (4) 防除効果の確保・・・農薬散布の本来の目的
 - (5) 農薬以外の防除法の導入等・・・農薬使用に伴うリスク低減

農薬飛散防止対策の留意点

1 農薬飛散（ドリフト）防止対策の基本的な考え方



2 農薬散布の基本姿勢の励行

- (1) 病害虫・雑草防除対策の実施
 - 1) 病害虫・雑草等発生状況の把握
 - 2) 防除対策の必要性及び実施方法の判断
- (2) 農薬の適正使用
 - 1) 適正な農薬使用・・・農薬使用基準の遵守（栽培暦等に基づいた栽培の実施）
 - 2) 責任の明確化・・・生産履歴記帳の徹底
 - 3) 連携・協力・・・栽培作物、収穫時期や使用農薬などの情報交換

3 農薬飛散防止対策

- (1) 基本的対策
 - 1) 適切な散布操作の実施
 - 2) 地域内での連携と近接作物への配慮
- (2) 補完的対策
 - 1) 基本的対策との組合せ
 - 2) 補完的対策
 - 近接作物栽培者等との連携
 - 遮蔽物の設置
 - 飛散しにくい農薬の使用 等

4 飛散リスク低減への取り組み

- (1) 農薬飛散の実態把握・・・対策の必要性・導入等を判断・選択し、具体的な対策を実施
 - 1) 散布機具、散布方法等による違い
 - 2) ノズル種類、散布位置、風速、圧力、薬液量等による違い
 - 3) 散布対象農作物の種類（草生、栽培方法等）による違い
 - 4) 周辺の作物による違い
- (2) 農薬飛散低減対策の実証（又は実施）
 - 1) 農薬飛散実態に基づいた実証（実施）対策の選択
 - 低減ノズル、障壁等
 - 基本的対策や補完的対策など各種対策の組合せ
 - 農薬散布以外の防除法の検討
 - 2) 試験実証の場合
 - 試験実施目的の明確化
 - 実証時の条件を把握
 - 飛散及び作物付着状況の把握
 - 3) 実施の場合
 - 既存データや実証結果を参考に実施
 - リスク低減のための各種防止対策の組合せ
 - 風量、風向き等に注意して散布

除草剤を散布する気持ちで、
殺虫・殺菌剤等の散布を！

5 農薬飛散防止対策実施上の留意点

- (1) 完全な飛散防止対策はない
 - 1) 農薬散布の基本姿勢を励行する
 - 2) 各種対策を組合せ、可能な限り飛散リスクの低減を図る
 - 3) 散布機具・機械の性能を把握し、的確な散布を心がける
 - 4) 実証結果等は対策実施の目安として活用する
（飛散の発生は、各種要因が複雑に関係し再現が困難なため）
- (2) 個々の経営や産地・地域で出来ることから取り組む
 - 1) 地域、作物、気象条件や経営規模等によって実施可能な対策が違う
 - 2) それぞれの条件下で実施可能な防止対策に取り組みリスク低減に努める
- (3) 防除効果の確保を図る・・・農薬散布の本来の目的
 - 1) 散布対象農作物や防除対象病害虫に合わせた防除の実施
 - 2) 防除対象作物への付着（葉表・裏）状況や病害虫発生状況調査等による防除効果確認
- (4) 多様な防除法の導入等の検討
 - 1) 農薬使用に伴う飛散リスクの低減
 - 2) 天敵昆虫、抵抗性品種や物理的防除法 等